

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
家庭	講義	2	須川 妙子
<b>【授業のテーマ及び到達目標】</b>			
<p>授業のテーマ： 家庭の役割についての基礎知識の習得し、教科としての「家庭」の意義を考える。</p> <p>到達目標： 家庭にかかわる諸問題を発見してその解決策をみだし、「家庭」教育の意義を理解することができる。</p>			
<b>【授業の概要】</b>			
<p>家庭の役割についての基礎知識について、他教科との関連を含めた講義を主とする。講義内容にかかわる簡単なレポートを授業中に書いて提出することもある。14 回目の授業では、講義内容と自分で調べてきたことを踏まえたグループ討論を行い、教科として「家庭」を教える意義の理解を深める。</p>			
<b>【全体の授業計画・内容】</b>			
<p>1. ガイダンス(授業の目標、授業の進め方、14 回目の説明(テーマ、調べておくことなど)など)、「家庭」を教えることの意義を考える。</p>			
<p>2. 家庭科とは(教科の目標と内容、教員の資質など)</p>			
<p>3. 家庭生活と家族</p>			
<p>4. 生活時間と家事労働</p>			
<p>5. 食の役割と計画</p>			
<p>6. 食品の選択、保存、調理</p>			
<p>7. 衣の役割と科学</p>			
<p>8. 衣生活の計画</p>			
<p>9. 住の文化</p>			
<p>10. 住生活の工夫</p>			
<p>11. 家庭の経済</p>			
<p>12. 消費生活</p>			
<p>13. 環境問題</p>			
<p>14. 子どもの家庭生活の現状と課題、改善策を考える(討論会)</p>			
<p>15. 試験およびまとめ</p>			
<b>【準備学習の内容】</b>			
<p>予習のあり方： 家庭について関心をもって過ごす。授業で指示された課題に取り組む。</p>			
<p>学習のあり方： 積極的に、真摯な態度で受講する。授業内容は自筆で書き取る。(写真撮影、パソコン入力禁止)</p>			
<p>復習のあり方： 授業内容をまとめ、自分で見つけた課題(疑問点など)を調べる。</p>			
<b>【成績評価】</b>			
<p>試験(40%) 提出物(30%) 受講態度(30%)</p>			
<b>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</b>			
<p>提出物にはコメントを記入して返却する。授業中の課題に関しては、口頭でコメントすることもある。</p>			
<b>【テキスト】</b>			
<p>特になし</p>			
<b>【参考文献】</b>			
<p>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館出版部</p> <p>加地芳子・大塚 眞理子 編著『小学校家庭科概論 生活の学びを深めるために』 ミネルヴァ書房</p>			